歌麿通信

# 喜多川歌麿画《女達磨図》

《女達磨図》は、平成19年に市内の民家で見つかりました。発見当初、経年変化による折れ筋や黴などが多数見られましたが、およそ1年の修復期間を経て現代によみがえりました。

美人が纏う衣の輪郭線は墨で力強く、速筆で描かれています。一方、頭髪は細い線で1本1本丁寧に描かれており、歌麿が大胆かつ慎重に筆を運んだ息づかいが伝わってきます。

栃木は江戸との交易によって物資の集散地となり文人墨客も往来し、商人の町として栄え、華やかな文化が花開きました。通用亭徳成をはじめとする栃木の狂歌人たちは、歌麿の浮世絵に狂歌を寄せていることから、彼らが親しく交流していたことが分かります。歌麿は度々栃木を訪れたと思われ、その際、求めに応じてあまり時間をかけずに《女達磨図》を描いたのかもしれません。達磨の扮装をした美人は、その小さな口元で歌麿の栃木での活躍を軽やかに語りかけているようにも見えます。

歌麿通信は5回シリーズで掲載します。

《女達磨図》1790～93（寛政２～５）年
紙本墨画着色・一幅

### ◆◇◆ 歌麿を活用するために ◆◇◆

歌麿を活用したまちづくりをなお一層推進するために、10月から教育委員会の文化課内に歌麿担当者を配置しました。

担当の役割は、歌麿の調査研究を進めるとともに、それを活用したまちづくりを推進していくことです。

問合せ　文化課　☎(21)2426

---

# 幸せを求めて

問合先　人権推進課　☎24－2444

## 一人ひとりが輝くために

家族で家事を分担しようと思っても、両親などの目があってできない、との悩みを若い母親から聞くことが少なくありません。

逆に、年配の女性からは、〝夫を支え子どもを育ててきたことに誇りをもっているが、それはいけないことなのか〟という質問をされ、とまどった経験のある方もいることでしょう。

人は誰でも、自分が持っている先入観、価値観により、人を判断しがちです。たとえば、性別や年代によって人間の価値を判断する基準が変わることは、その人の可能性を狭め、尊厳を傷つけることになってしまいます。

これからは、わたしたちがそういった固定観念に縛られず、職場、家庭、地域など、社会のあらゆる場面で、老若男女が共に支えあうことが必要とされてきます。

そのためには、わたしたち一人ひとりの意識を変えることが大切です。誰もがお互いを尊重し、より良いコミュニケーションを持つことが必要です。

気づいたことから、ほんの少し自分自身を変えてみませんか。